

### 第3学年 音楽科学習指導案

日 時 平成27年 10月 9日 (金) 5校時

生 徒 巻堀中学校 3年B組 男16名 女11名 計27名

指導者 名久井 愛 子

1 題材名 「リズムアンサンブルの楽しみ」―「テクスチャを生かした音楽表現（創作）をめざして」―

2 題材の目標

テクスチャを生かした音楽表現になるよう、「縦（拍の刻み）」「横（旋律の流れ）」「パート間でリズムをつなぐ構造」に着目して、リズム演奏・創作を工夫させる。

3 題材の評価規準

関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
・反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりなどに関心を持ち、それらを生かし音楽表現を工夫して音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。	・音楽を形づくっている要素（テクスチャ・リズム）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを生かすなどして音楽表現を工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図を持っている。	・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけて音楽をつくっている。

4 単元の学習系統（関連と発展）

小学校 3・4年生	小学校 5・6年生	中学校 1年生	中学校 2・3年生
音楽づくり ・いろいろな音の響きやその組み合わせを楽しみ、さまざまな発想をもって即興的に表現する。 ・音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって音楽をつくる。	音楽づくり ・いろいろな音楽表現を生かし、様々な発想をもって即興的に表現する。 ・音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくる。	創作 ・言葉や音階などの特徴を感じ取り、表現を工夫して簡単な旋律をつくる。 ・表現したいイメージを持ち、音素材の特徴を感じ取り、反復、変化、対照などの構成を工夫しながら音楽をつくる。	創作 ・言葉や音階などの特徴を生かし、表現を工夫して旋律をつくる。 ・表現したいイメージを持ち、音素材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを工夫しながら音楽をつくる。

5 題材について

(1) 生徒について

小学校では、「リズム演奏の技能」を磨き、ボディーパーカッションの活動等に自信を持って取り組んできた。そのため、中学校1，2学年の表現活動において「リズムの模倣演奏」「簡単なリズム創作」に大変意欲的に参加することができている。一方で、リズムを「記譜の知識（音符・休符・リズム）」や「譜面から（音符・休符・リズム）読みとる能力」、内容が定着していない生徒も少なくない。また、「パート間でリズムをつなぐ能力」については、男女比の違いがある合唱活動と比較すると、本活動のほうが指導効果が期待できる面がある。

系統性を意識した学習手順を踏むことによりフィードバックしたり、学習形態を効果的に用いて生徒どおし支え合ったりして、定着を図りたい。

## (2) 教材について

本単元では、学習指導要領「内容」の第2学年および第3学年の「A表現」(3)創作のA 言葉や音楽などの特徴を感じ取り、表現を工夫して簡単な旋律をつくること、イ 表現したいイメージを持ち、音素材の特徴を生かし、反復、変化、対象などの構成や全体のまとまりを工夫しながら音楽をつくること〔共通事項〕ア リズム、テクスチャを扱う。

## (3) 指導について

これまで、1, 2年生の創作分野では「簡単なリズムの創作」を中心に学習してきた。本題材では、常に小学校からの既習事項を段階を踏みながら復習し、知識技能の定着を確認しつつ、最終的には「テクスチャを生かした創作」活動に取り組みさせる。

まず導入部では、6つのリズムパターンを用い、「記譜の知識(音符、休符、リズム)」や「拍にのせた正確なリズム奏の技能」について補充・進化を図る。個人の知識・技能レベルを揃えることによって、その後の「リズム打ち活動」「創作活動」を円滑に進めたい。

その際には、十分な技能をもつ生徒を中心に学びあいなどし、表現力を高められるよう、グループ編成に配慮する。

次に、反復・変化・対照などを含めた「テクスチャ」の構造や全体のまとまりを感じ取らせることをねらいに、アンサンブル曲の演奏に取り組む。

その中から、特に「リズム演奏をパートでつなぐ構造」に着目させ、本時では①工夫してリズムをつくる②パートの音色の組み合わせを工夫する③構造を工夫して、旋律を組み合わせる、という活動を通して「テクスチャ」を生かした小品の創作へと発展させていきたい。

なお創作活動においては、用いるリズムを提示・限定するなどし、「テクスチャを生かした創作」にかかる時間の確保に努める。

## 6 題材の指導計画(全3時間)

小単元(時数)	学 習 内 容
1. 「リズム」の特徴を生かして ♪教材曲「テキーラ」 6つのリズムパターン  ♪教材曲「リズムムービング ～巻中 Ver.～」	<ul style="list-style-type: none"><li>・小学校からの系統性をふまえ「記譜の知識」「拍子にのせてリズムを正しく打つ技能」を補強して、次の学習段階への足場を固める。教材曲「テキーラ」を鑑賞し、「リズム」伴奏に着目。6つのリズムパターンのリズム打ち、聴き比べをして、それぞれの特徴をつかみ、違いを味わう。</li><li>・リズムアンサンブル曲を鑑賞。曲の構造に着目し、それによって生み出される表現効果を学習。特に「パート間でリズムをつなぐ」部分に着目する。</li><li>・本時の課題を「テクスチャを生かした音楽表現をする」こと、特に「パート間でリズムをつなぐ」部分の演奏に重きをおきグループ毎にリズム演奏に取り組む。「正確なリズム」で「縦と横」を生かした表現になるよう工夫する。</li></ul>
2. テクスチャを生かした小品の創作	<ul style="list-style-type: none"><li>・前時の学習を生かし、「パート間でリズムをつなぐ」部分の創作にむけて、ひとり2小節のリズム創作をする。</li><li>・つくった旋律をパート(音色)に着目して、工夫して3パートに振り分ける。</li><li>・3人の子供のつくった旋律を、構成に着目して、工夫して組み合わせる。</li><li>・学習シートには、どの部分を「テクスチャ」にして、どのような表現効果をねらったのか、作り手の意図も書き込む。</li><li>・完成後、全グループの作品を発表しあう。</li></ul>
3. 発表と批評	<ul style="list-style-type: none"><li>・前時の振り返り。</li><li>・前時の学習をもとに、新たにもうひとつ作品をつくる。</li><li>・創作した小品を、4人グループ内で演奏し批評しあう。</li></ul>

7 本時の指導

(1) 目標

テクスチュア（縦の刻みと横の流れ）をいかして、『リズムアンサンブルの小品』を創作する

(2) 研究との関わり

- ① 小学校での指導内容を復習しながら、発展的に学習を進める。
- ② 明確な学習課題を設定と、終末の振り返りをする。
- ③ グループで意見交換する学習形態を用い、互いに学び合わせる。

(3) 展開

段階 時間	学 習 活 動 ○：予想される反応	指導上の留意点 ◎：研究との関わり 評：評価
導 入  10	1. 既習事項の確認 「テキーラ」の6種のリズム伴奏を比較。 特徴をつかみ、味わう。 ○音符が多く忙しい○休符が多いのんびり。 2. 「テクスチュア」のおもしろさに気づく。 ・「リズムパターン」を、複数重ねると？ 3. 本時の課題把握 <「リズムアンサンブル」創作に挑戦！> 「パート間をリズムでつなぐ構造」部分 を、工夫して創作しよう。	◎系統性にに基づき、発展的に段階を踏んで復習する。
展 開  30	4. 課題追求 「テクスチュア」（以下「テ」）の定義確認。 リズムアンサンブル曲を聴き、「テ」に着目、 構造的特徴と演奏効果をとらえる。 ・表に「構成」と「どのような感じ」か記入。 1～8小節…少しずつパートが加わる構成 →だんだん盛り上がる、増えて重なる感じ 9～16小節…反復→続いていく、安心感 17～23小節…パート間でリズムでつなぐ構 成→メロディー部分をパスしている感じ 24/25小節…縦揃う構成 →斉唱、整然、ピッタリと揃う感じ 5. 創作 ・3人グループで、17～23小節目の創作を 行う。 ・ひとり2小節ずつ旋律を創作し「パート間 でリズムをつなぐ構成」となるよう、反復・ 変化・対照などを工夫して組み合わせる。	◎3人グループをつくり、学び合う。 学習プリント用意 評・曲の構造や全体のまとまりなどに関心をもち、 意欲的に取り組んでいるか（関心）。  ◎相互・自己評価 評創作に意欲的に取り組んでいるか（関心）。 評演奏を工夫した箇所について、その意図を 具体的にプリントに記入しているか（工夫）。
終 末  10	6. まとめ合奏 7. 本時の振り返り 「パート間をリズムでつなぐ構造」部分 を、工夫して創作することができたか。 8. 次時予告	評今日の学習への取り組みについて振り返る。